

# Keiba Global Front Line

競馬グローバル・フロントライン  
競馬の最前線で活躍する馬や人を紹介致します



合田 直弘

今回のこのコラムは、今年度のカルティエ賞2歳牡馬部門受賞を確実にしているチャーチル（牡2、父ガリレオ）をご紹介させていただきたい。

今をときめくエイダン・オブライエン厩

舎から、今年5月22日にカラのメイドン（芝6F）でデビュー。初戦は3着に敗退

したが、これはオブライエン厩舎ではよくあることで、ことに牡馬の場合は、ハイラン

ドリールしかし、オーダー・オーヴィントジ

ヨージしかり、ザ・グルカしかり。彼が手掛け

けるG1勝ち馬の多くが、初戦を勝ち損

なっている。

エイダンがチャーチルの2戦目に選択

したのは、ロイヤルアスコットのLRチャーシュ

イムS（芝7F）で、つまりは格上にぶつけ

たわけだが、チャーチルはここをあっさり

と勝ちあがつた。その後は、7月にレバーブタウンのG3タイロスS（芝7F）、8月にカラのG2フューチュリティS（芝7F）と、

手順を踏んで出世の階段を上らせ、9月

にカラのG1ナショナルS（芝7F）でG1

初制覇を果たしている。タイロスSでは

「首」だった2着との差が、フューチュリティ

Sでは「2馬身」と、相手が強くなるたびに

勝ち方がよくなっていたから、フューチャー

チャンピオン・フェスティバル2日目（10

月8日）のメイン競走として行われたG1

デューハーストS（芝7F）に登場したチャ

ーチルが、1.73倍という圧倒的1番人気に推されたのも当然だつた。

道中は7頭立ての4番手を進んだチャ

ーチル。残り450m付近で鞍上R・ムー

アのゴーサインが出た刹那、前がかかる

局面があつたが、外に持ち出して進路を

確保すると、着実に末脚を伸ばして優勝。

2着は逃げた同厩のランカスター・ボマー

（牡2、父ウォーフロント）で、着差は1.1/4

馬身差だったが、危なげのない内容で5連勝を飾つた。

これを受け、ブックメーカー各社は来年

の二千ギニーへ向けた前売りで、チャーチルをオッズ2.5倍から3.0倍の抜け

た1番人気に推している。

こうした期待にチャーチルが応えられ

るかどうかは、この冬の間に彼がどれだけ成長するかにかかるといよう。

例えば、エイダンが手掛けた14年の2

歳牡馬チャンピオン・グレンイーグルス

（父ガリレオ）。デビュー2戦目からG1ナ

ショナルSを含めて4連勝という、チャーチルと同じような実績を残した同馬は、

翌春、ニューマーケットのG1英二千ギニー（芝8F）、カラのG1愛二千ギニー（芝8F）に加えて、ロイヤルアスコットのG1

セントジェームズ・パレスS（芝8F）も制し、

周囲の期待にきつちりと応えている。

ところが、2歳だった昨年の成績5戦4

勝、G1デューハーストS、G1ナショナル

S、G1ラヴェラクスS（芝6F）と3つのG1を獲つて文句なしで2歳チャンピオンとなつたエアフォースブルー（父ウォーフロン）は、今年の春初戦となつたG1英二千ギニーで12着に大敗すると、続くG1愛千ギニーも7着。距離に原因があるのではと見た陣営は次走、G1ジュライC（芝6F）に矛先を向けたが、ここも12着と大敗と、惨憺たる成績に終わった。つまりは、早熟タイプで仕上がりの早さを活かして勝っていたのが2歳時のエアフォースブルー、という結論を得るに至つたのである。

チャーチルの母は、LR・グラニジ・コンステッドS（芝5F）に勝ち、G2クイーンメアリーS（芝5F）2着の実績を残したミヤオだ。そして祖母は、G1チーヴ・アリーパークS（芝6F）勝ち馬エアウェイヴである。すなわち、牝系には早熟の遺伝子がびつりと詰まつてゐるのがチャーチルなのだ。

一方で、ストームキャット牝馬にガリレオというのは、グレンイーグルスと同配合で、そうであるならば、少なくとも来春のクラシックを戦い抜く成長力を秘めている可能性は高い。

来春のチャーチルが果たしてどのよう

な成績を収めるか。非常に楽しみである。